

起業を重ねて事業拡大

会社の目線はいつも全国展開

株式会社 マコセエージェンシー

遺族の想いを紡ぐ
会葬礼状で日本一株式会社マコセエージェンシー
代表取締役

五十嵐 芳明氏

Igarashi Yoshiaki

法政大学大学院教授

坂本光司先生が絶賛“世界に自慢したい会社”

遺族の想いを“温もりのある言葉で編む”そして映像 (DVD) で伝える。総合広告の企画・立案・テレビ広告、そして地元新聞広告などの主業務より、隣接する異業務として葬儀の会葬礼状を制作する業務へ拡大。今やこの分野で日本一企業となった。文章の才能より「徳のある人間かどうか」をモットーに、思いを届ける舞台は若いスタッフを中心とした活気溢れる職場。

社長はいつも舞台の袖で日本一の企業を企画・制作。

そしてさらに新しい分野にも挑戦。

まだ終わらない… macoseプロジェクト。



▲オペレーションルーム(本社)



▲第2オペレーションルーム(本社)



▲メディア事業部(第2ビル)



▲経理 総務部(本社)

DATA

設立 昭和63年10月1日

本社 鹿児島市上之園町25-33
macosePARKSビル

事業拠点 東京本部・大阪支店
名古屋支店・熊本事務所

従業員数 127名(平成27年7月1日現在)

事業内容 総合広告代理店
総合広告計画の企画・立案・実施
テレビ広告・新聞広告・折込広告
インターネット広告・ラジオ広告
雑誌広告・交通広告
屋外広告(看板)・求人広告
オリジナル会葬礼状の作成
会葬ハネルの作成
フューネラル関連商品のご提案



▲メディア事業部のある
macose 第2ビル(上之園町)



▲macose 本社ビル(上之園町)

「想いを伝える」を 基本理念に進化を 続ける

広告業を営むかたわら、12年前にオリジナル会葬礼状の作成事業を始めた。遺族に故人の生前のエピソードなどを電話で取材。定型の文章ではなくオンリーワンの文章で故人をしのんでもらう。2014年、日本で127万人が死亡するなか、約11万件の利用があった。五十嵐社長は鹿児島県出身。東京の大学でデザインを学び、30歳のとき鹿児島市で広告代理店を立ち上げた。血縁関係を大事にする鹿児島県で盛んだった新聞の計報広告の制作を始め、地元紙に掲載される計報広告の7割を請け負った。しかし、新聞の部数減少とともに計報広告の需要も縮小。会社の将来を見据え着目したのが、葬儀の参列者に渡される会葬礼状だった。「故人の人生や遺族の思いが伝わる一枚になるのでは」と思い立った。担当者は「お人柄や性格など教えていただけませんか」というか「と、丁寧な語り口で質問。取材から2時間以内で原稿を仕上げる。スタッフの平均年齢は33歳と、若い「人財」が多く活躍している。

会葬礼状の制作スタッフを採用する際に重要視するのは、文章力があるかどうかよりも「徳のある人間かどうか」短い文章で共感と感動を覚えてもらうには、文才よりも感性の豊かさが大切なのだろう。個々が持つ力をより輝かせるため社内研修にも力を入れている。表現力を高めるため、スタッフ自ら考えたあらゆる切り口の勉強会を開き、外部講師を招いての講演会も頻繁に行っている。

「遺族が抱える「悲嘆」を少しでも和らげたい」日々ご遺族と向き合い続けるスタッフの思いは熱い。



▲本社2階の壁面には創業当初から今日まで大切なご縁をいただいた皆様の写真を加工した絵画が飾られている



▲オリジナル会葬礼状の礎となったお悔やみ広告(南日本新聞)



▲ランチは社員が作り、社員が食事する
macose KITCHEN

社員さんにズーム

グリーンサポート部 人事部長
堤由紀子さん

私が初めてオリジナル会葬礼状を手にとったのは、前職の同僚のお子さんがかなくなった時でした。病气だとは知っていましたが、実は出産前に心臓が悪いと分かっていたことや小さな身体で何度も手術を乗り越えたこと、走り回る姿を見られただけで幸せだという両親の思いが綴られていて、皆で涙しながら読んで感動しています。父を敬う息子の思い、母を慕う娘の声、祖父へ向けた孫の感謝の気持ち、会長に誓う社員の言葉。はがき大の会葬礼状には、無限の思いが込められています。

電話の向こうのご遺族様の話に耳を傾け、時に笑い、時に涙を流しながら、ほんのひととき在りし日のお姿を共に偲ぶ。他にはない仕事だからこそ得られる感動とやりがい。この仕事の一番の魅力だと、私はそう思っています。

まち・ひと・しごとづくりで55年

鹿児島県の経済をリーディング

株式会社 南日本総合サービス
株式会社 南日本ビジネスサービス 他

ビルを活性化し必要な人材を派遣し サービスをモットーとする 総合ビルメンテナンス業



株式会社南日本総合サービス
代表取締役社長

吉田 健朗氏

Yoshida Kenro

社長の実兄は…

日本アカデミー賞優秀監督賞他各賞を受賞した、日本映画界の第一人者
吉田大八監督。

創業者は現社長の祖父吉田勇蔵氏。

吉田勇蔵氏は、南日本新聞社社長を退任後ビル管理会社を設立。業務のアウトソーシングという時流にもり順調に成長、その後吉田勇蔵氏の二男吉田守氏が社長に就任し、業容をさらに拡大。昭和61年には人材派遣のパイオニア(株)南日本ビジネスサービスも設立し、こちらも現在では売上・シェアともに県内NO. 1の人材派遣会社に成長。基幹業務のビルメンテナンス事業はもとより、ホテルレストラン事業や病院の医療請求事務などを行うメディカル事業など事業領域も拡大。まち・ひと・しごとづくりに創業以来55年間真摯に取り組んでいる。

PFI事業

指宿地域交流施設整備等事業(道の駅いぶすき)を皮切りに

- ・鹿児島大学環境バイオ研究棟等改修施設整備等事業
- ・鹿児島県警察学校整備等事業
- ・鹿児島市新鴨池公園水泳プール整備・運営事業

と多くの鹿児島県におけるPFI案件に関わり、長年にわたりビルメンテナンス業務で蓄積した技術やマネジメント能力を活かし新しい分野にも積極的に取り組んでいる。



DATA

設立 昭和36年7月12日
本社 鹿児島市小川町15-1
従業員数 1,340名(平成27年4月現在)
事業内容 ビルクリーニング
マンション管理
建築設備管理
ホテルレストラン業務
警備保安サービス
医療請求事務
人材派遣業務
受付電話交換業務
レンタルマットモップ業務
PFI事業 指定管理者



1961年に南日本放送が高麗町に放送会館を建設するにあたり、MBCとMBCサービスの出資も頂きその放送会館のビル管理を行なう会社「鹿児島ビルサービス」として設立。その後、社名を「南日本総合サービス」と変更し現在に至る。

放送会館のビル管理という目的で設立したが、お客様のニーズにあわせ応えていくうちに、各種施設の管理・清掃から始まり電話交換、人材派遣、病院の医療請求事務、マンションの管理業務等と高度経済成長やお客様の業務アウトソーシングの流れにも乗り、順調に拡大してきた。

平成17年からは、鹿児島市小川町にあるビジネスホテル「アーバンポートホテル鹿児島」を取得し、ホテル事業も行なっている。

マンションの管理業務は、分譲マンションの増加とともに順調に管理戸数も増えてきておりマンションのトータルメンテナンスから管理組合運営の事務委託、資産価値向上のアドバイス等、総合的なサポートを行なっている。マンション管理業者の全国組織(二社)マンション管理業協会に所属する唯一の鹿児島に本社を置く会社という

ことでご用意いただくケースも多
くある。

「ビルは第二の自然でありたい。」
—お客様に自然のようにどこか温
かみのある快適な環境を提供する
ことによりお客様が繁栄されるこ
とを目標に、日々精進している。

「人材教育に力を」

常にお客様の頼もしい最高のパ
ートナーで在り続けたいと考えてい
る。

全ての業務において従業員が提供
するサービスを通して、お客様満
足をいただくことを目指している。

そのために高品質なサービスの提
供ができるように従業員教育・研
修を徹底して行い、育成に力をい
れている。

笑顔や挨拶といった基本的マナー
から各種業務に関連した資格取得
を会社としても最大限バックアッ
プしており、より高いスキルをも
った業務のプロフェッショナルの
育成に努めている。

また、バックアップ体制には常に
気を配っており、個々のスタッフ
とのコミュニケーションを万全に
し、最大限の対応ができる体制を
維持することがお客様の信用にも
繋がると考え、人材教育に力を入
れている。

社員さんにズーム



ビジネス部 瀧口結さん
私は(株)南日本総合サービス・ビジ
ネス部に所属し、主にインフォ
メーション業務を中心にお仕事し
ています。インフォメーション業務
とは、受付を中心としたお客様
対応、電話対応を行います。この
仕事の特徴は、さまざまなお客様
とコミュニケーションをはかる機
会が多いことだと思っています。
顔なじみのお客様や初めてお会い
するお客様も多くいらつしやいま
す。そのすべてのお客様への確
迅速な対応ができるように日々
心がけています。
お客様一人ひとりとかがわる時
間は決して長くありませんが、そ
の限られた時間の中でもお客様と
の信頼関係が築けたり、喜んでい
ただいた瞬間にインフォメーション
業務のやりがいを感じております。
「サービス業は「目で見える実績」
というものはあまりないかもしれ
ませんが、これからお客様と心
が通う瞬間を大切に頑張ってい
たいと思います。」



▲ビジネス部所属 瀧口結 現在 22 歳
新卒入社 2 年目です

時代に合わせて創業

健康を届ける“幸せ配達人”

株式会社 てまひま堂

カプセルの中身は見えませんが『本物』であるかを工場見学で見れる

株式会社てまひま堂
代表取締役社長

吉岡 靖雄氏

Yoshioka Yasuo

社長の想いがたくさん詰まったカプセル

- ①仕事を好きになる ②愉しんで仕事に取り組む
③誰にも負けない努力を行う ④利他の心で物事を判断する
時代の動きに合わせて、変化させながら今のてまひま堂に至る。

カプセルの中身は「手間と時間（ひま）をかけて」心通わせる本物を！！
吉岡社長と語ると自然と幸せを感じる。心をつなぐ 気持ちを伝える 笑顔をつくる 社長の信念が見えてくる。

そして社員385名、工場見学は14,000人を越えた。

まさに“まちづくり・ひとづくり・しごとづくり”てまひまかけて 願かけて
今の会社を創った。



DATA

設立 平成 14 年 4 月

本社 鹿児島市唐湊 4-17-1

従業員数 385 名(平成 27 年 7 月現在)

事業内容 健康補助食品の
製造・通信販売

にんにく卵黄 229-55
(ニンニクゴーゴ)・
しらす洗顔てまひま美人
その他



▲お話を伺った西信幸さん

あくなき本物への追求。
本物への追求は、
花園経営を目指す
「ひとつづくり」にも
活かされている。

年頭の言葉に「ありがとうでいっぱい
な花園づくり」を掲げ、多様な年齢
のスタッフがバランスよく構成される
「花園経営」を実現することが大切
だと考えている。
「年齢別にいろいろなひとでバランスよ
く構成された花園にしたいですね。
40歳になれば40歳の仕事ができるよ
うな人財に育ってもらいたいと思いま
す。そのためには常に新しい感覚を
磨き、新しいポストをつくる仕組みが
なければならぬ。営業だけわかつても
ダメ、経営がわかるだけでもダメ。花
園の花は私たちが常にきれいにしてお
かないと現状維持どころか雑草が
茂ってしまいます。汚い花園にはお客
様は来ていただけませんが、きれいな
花園には来ていただけると信じていま
す。雑草が茂らないよう手入れを
怠らずにこまめに雑草を取り除き、
新しい種をまき続けることが必要で
す。行動の手入れ、心の手入れを怠ら
ずこれからも花園経営を目指し続
けます。」と、社長は話す。
経営計画書とフィロソフィ、リンクアッ
プノートというツールを活用しながら
人財教育を行っており、また新しい

プロジェクトを多数立ち上げ、若い社
員にプロジェクトリーダーを任せるこ
とで、多くの成長の機会を与えてい
る。全社員の物心両面の幸福を提供
することが経営理念である「あくなき
本物の追求」にもつながると信じて
いる。

世界最先端の
品質管理と製造工程を
オープンに。安心と
安全の追求。

△製造工程をオープンに、14000
人が工場見学に参加▽
日置工場では、てまひま堂の主力商
品である「にんにく卵黄229-
55(ニンニクゴーゴ)」を製造。胃
で溶けずに腸で溶けるカプセルを使
用することで、飲んだあとに嫌な臭い
がする心配をなくした。にんにくは
青森県七戸産を100%使用、卵は
霧島たまご牧場の有精卵を100%
使用し、原材料にもこだわっている。
また、日置工場では、製造工程をお
客様に公開して工場見学を実施。こ
れまでに14000名の方が工場見
学に訪れている。カプセルの中に何が
はいつているか知ること、安心して
「にんにく卵黄229-55」を服
用していただける環境づくりにも取
り組んでいる。

△米GMP登録▽
2014年12月11日付で米国の健康
補助食品原料の適正製造(GMP)

社員さんにズーム



製造課 西信幸さん

現在、日置工場で製造から発送ま
でを行っています。直接お客様の
口に入るものを作っているので、厳
しい品質規格のある自社工場であ
心してお飲みいただける商品作り
を常に心がけています。お客様の
ためにも思うと、なんでも頑張れ
ます。
また工場見学にいらっしやるお客
様へ広報の仕事も任されています。
「工場見学楽しかったよ！これなら
安心して飲み続けられる！」そう
言っていたときはとても嬉し
くて、またお客様の溢れんばかり
の笑顔にいつも元気をいただいで
ます。

に登録。世界最先端の品質管理認証
を受け、より安心・安全の確保がで
き、今後も包み隠しのない情報開示
をしていく考え。
『当社ではこれからも、お客様の健康
づくりのお役に立つために、スタッフ一
同力を合わせ、安心・安全で高品質
な商品づくりに取り組んでまいり
ます。』